

「達成感」「自己肯定」「人格形成」

生活とは動くこと、目的がある動きをすること

2023.2.1 つき組 平島

モンテッソーリ教育ではおなじみのフレーズですが…その途中経過の姿がこれです

今、つき組で子どもたちがよく使っているデコポンリング



どういふ事?

子どもはリングに出入りする為に、こんなにたくさんの身体の動きを組み合わせています。

①台の上に両手をしっかり着いて②片足と両手でバランスを取り③反対の膝を曲げて台の上に引き上げ④曲げた膝を伸ばしながら⑤おしりを台の上に乗せ⑥上半身の体重を手で⑦おしりを浮かせて位置をずらし⑧リング内の床に片足をつく⑨着いた足に体重を移し⑩反対の膝を台にあげながら⑪床に着いた足の方に残った方の膝を引き寄せ⑫台上った足を後ろに出して⑬リング内の床に着地する

リングの出入りを繰り返すには、このような全身の動きと調節が絡まり合っています。この一通りの動きを連続してできるようになるまで、子どもは1年数か月間たくさんの身体と動きの練習をしてきました。

運動が多いと良いの?

では、とにかくたくさん自由に運動すると「達成感」が味わえて「自己肯定感」が上がり「自信がある人格」ができるのでしょうか？
答えは「いいえ」です。皆さんもよくご存じのように、ただうろうろするだけでは「なにもししていない」と同じことがあります。

「達成感」は、その時その子どもにとって「あと少しでできそうだ」という課題を何度も練習してできるようになった時に芽生えます。そして自信がついた時に次のステップが見えているのが良い環境です。

今、リング出入りが楽しいのはなぜか？ 答えは、大体「両手で支えてしっかりと体重移動をする」ところにあります。両手の支えがなくしっかりと足で立ち歩けるようになると体重を支えるための手から「自由に使える手」「道具を周りの人のように使いたい」という欲求が出てきます。



子どもは、そろそろ次のステップにきました。「私はもうしっかりと色々な体勢ができるようになったので」「この手をどう使おうかな？」リングの中からきよろきよろ。周囲をよく観察しています。ほしはな組がもうじき見えています。